2006

絵本とおはなし大好き講座

実施報告書

主催：おはなしがらがらどん

助成：独立行政法人国立青少年教育振興機構
『子どもゆめ基金』

「絵本とおはなし大好き講座」を終えて

すばらしい講師をお迎えし、なんと充実した講座だったことか。思えば、２０年前の図書館主催のボランティア養成講座が、私の「おはなしおばさん」としての出発点でした。その時以来、こんなに真剣に子どもと絵本について考えたことはありません。新しい仲間を募るために企画した講座でしたが、すばらしいリフレッシュ講座であったと感謝しています。

幸運にも、豪華な講師陣に恵まれた前半への期待と、これまで経験したことのない、講師の役割を担う後半への不安を抱えスタートした講座でした。その中で、様々な場面での力不足や、経験不足にも目をつむり、最後までお付き合いくださった受講者の皆様に感謝します。そして、これから一緒に活動してくださる意欲的で頼もしい新会員の方々を迎えることができたことは、何よりの収穫だったと思います。

この講座によって、私達はたくさんの貴重な経験をしました。落合先生の絵本の読み方の実践では、読んでもらうことの楽しさを改めて知りました。それと同時に、読むことの難しさ・練習の大切さも再認識しました。「わらべうたであそぼう」もとても楽しい時間でした。

大変有意義な内容の読み聞かせボランティア養成講座が終了し、何名かの方が私たちのおはなしグループのメンバーとして加わってくださいました。主催の側としては、とても喜ばしいことです。子ども達の豊かな心の成長のために、ともに歩んでまいりましょう。

感激し、勉強になった半年でした。講師の方からは、改めて絵本の奥深さ、広さを教えていただきました。第８回では、講師になり、準備と進行を学びました。初めての事で、ドキドキして当日を迎えたのも、良い思い出です。

子どもと本の世界で仕事をしていますが、今回のように大人へ絵本の講評をする機会はあまりなく、とても貴重な経験でした。しかしながら、子どもでも大人でも同じことで、絵本の持つ雰囲気を壊すことなく読んでいるか、また、聞き手が楽しんでいるか、絵本が伝えたいことが、きちんと伝わっているかという、ごく基本的な観点から講評させていただきました。また受講生と勉強を進めていく中で、絵本の持つすばらしさを再発見することができました。どうぞ質の良い絵本の持つ力を信じ読んでいってください。

2007 年３月

第１回　記録

実施日時　平成１８年６月８日（木）　午前１０時００分～１２時００分

活動場所　成田市立図書館２階集会室

指導者名　荒井　督子氏

外部指導者　　１名　　団体構成員　１１名

参加人数（大人）６０名

活動内容

１．　開講式：式次第に添って行われる

司会・進行　・・・　成田市立図書館児童担当

来賓挨拶　　・・・　成田市教育長

主催者挨拶　・・・　おはなしがらがらどん

２．　講演会

（財）東京子ども図書館　荒井督子氏による

「子どもと本の架け橋　　ボランティアとして子どもと本にどう関るか」

米国滞在中に目の当たりにしたボランティア活動の姿勢と原点をまず示してくださる。

また私達大人が子供時代に読んだ本で感動した思いを子どもたちに届け、分かち合えば子どもたちは自ら本の世界に飛び込むようになる。その為には、大人が心の奥底を心地よく揺さぶるような本を選びに選んで、子どもたちに手渡して欲しい・・・。と具体的な実例を挙げてご教授くださった。

＊ アメリカでボランティア活動を知る

４０年前、留学生の夫について１年間、ニューヨーク州ロチェスターへ。ロチェスター大学の図書館でパートタイムで働く。そこで、ミュージアムツアーの送迎ボランティアが２人の幼い子連れの女性で驚く。そして、美術館を案内してくれた女性もボランティアだった。彼女達から「自分もハッピーで、楽しまなければボランティアは続かない」ということを教わる。

＊ 高校生の卒論から

昨年九月、高校生がおはなし会の見学に来た。７歳の妹が、東京子ども図書館のおはなし会に嬉々として通い, 借りてきた本を母に読んでもらっているのはなぜかを知りたくて。彼女の卒業論文は示唆に富んだものだった。

・蔵書に秘密があるのか？　自分は「ノンタン」などの書店に多く置かれているものを読んだが, 妹が読んでいるのは, 心の奥に響くものを持っている本ではないか。

・人に本を読んであげること、それに手をかけることに秘密があるのでは？

・子どもは行きたいと思わなければ図書館には行かない。

・「おはなし」の大切さ

・子どもにとって面白い、楽しい本を選ぶ力

＊ こども時代に読んで感動した本がありますか

＊ 何でもいいからたくさんでなく―よく選ぶ
脇明子著「読む力は生きる力」
「グリム童話」「アラビアンナイト」などの訳の問題
どの本(版)を置くか、図書館員が勉強する必要がある。

＊ あなたの世界を広げ、分かち合う喜びを
ふさわしい本を選んだかどうか。
読みつがれた本をまず読むこと。（出版されてから２５年たつ本）by 松岡享子氏
自分が好きになれない本はやめたほうがよい。伝わらない。
自分の中にストックを作る。
その先に新しい本を判断できるようにする。

第２回　記録
実施日時　平成１８年６月２２日（木）　午後１時００分～３時００分
活動場所　成田市立図書館２階視聴覚ホール
指導者名　吉田　新一氏
外部指導者　　１名　　団体構成員　１１名
参加人数（大人）７４名

活動内容
１部 入門編
絵本は「絵」を読むことです。
私自身、絵本と関ったのは長男が３才の時、ウクライナ民話「てぶくろ」が最初で、自分自身が絵本に興味を持ちはじめたのが４０代を過ぎてからです。まず「おおきなかぶ」を紹介します。
○ 「おおきなかぶ」
①「おおきなかぶ」　内田莉莎子　再話／佐藤忠良　画　　福音館書店
佐藤忠良氏が描いた絵の代表作で、デッサンがしっかりしている。
おじいさんとカブと助っ人以外余計なものが描かれていない。
佐藤氏は「私は出来るだけ背景や小道具をもち込まぬ様心がけた。この作品を完成させるの
に３度描き直した」
② 「おおきな　おおきな　おおきなかぶ」　ヘレン・オクセンハーリー　絵　こぐま社
表紙にはかぶを抜き終わった場面が描かれていて、中は農場の風景が描かれていてコミカルである。かぶが抜けた場面がダイナミックである。
③ 「The Enormous Turnip」　Roberta Lvmley　絵　Ladybird Books 1970
昔話ではなくなっている。

以上の３点を見るとイラストレーターの描き方の違いが分かると思う。

○「てぶくろ」
① 「The Mitten」はアメリカの作家が描いたもので、ラチョフに敬意を表してラチョフの絵を下敷きに描いた。森が象徴的に描かれている。
② ラチョフの描いた「てぶくろ」は余計なものが描かれていない。時間の経過がよく描かれている。
③ Ａ・トルストイの再話ではてぶくろではなくつぼになっている。

○「おみまい」　矢川澄子　文／宇野亜喜良　絵　　ビリケン出版
表紙に描かれている子供は可愛い少女ではない。宇野氏流によると少女は不愛想にしている方が少女らしい。スカートに描かれているペンギンの変化に注目。最後はペンギンがスカートから飛び出している。絵本をたんねんに見ていくと語りがある。

２部

ルース・クラウスの作品「ぼくのにんじん」では、子供の内面をストレートに描いている。

「３人のゆかいな狩人」「ジャックがたてた家」「パンはころころ」マザーグース「Rng-a-Ring-O”Roses」「ヘクター・プロテクターとうみのうえをふねでいったら」「ピーターラビットのおはなし」の絵本に描かれている島の様子を興味深く楽しく紹介してくださる。

現代絵画の文、コールデュットの作品「Bears」では主人公の感情の高ぶり、そして爆発、そして解消、冷静な状態に戻っていく様子を絵本を見ながら説明してくださる。

第３回　記録
実施日時　１８年７月６日（木）　１０時００分～１１時３０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　落合　美智子氏
外部指導者　　１名　　団体構成員　１１　名
参加人数（大人）４９名

活動内容
「ものがたりが生まれる」・・・子どもと共にたのしむお話の世界

最初にわらべ歌を紹介
～　おちゃをのみにきて下さい。　はい、こんにちは
　　いろいろお世話になりました。　はい、さようなら　～
他に、あんたがたどこさ～子どもの頃、まりつき歌で遊んでいた。
　　ずいずいずっころばし
　　かごめかごめ
この様に、わらべ歌は言葉と声があってできている。
今日の講座は３回目になります。この講座を通じて「語」を聞いた時の新鮮な感動を原点としてもっつ事が大切と言うことを学んでいただきたい。そして聞き手の子供を知るという事が大切だと思う。
講座を通じて、どのような本が素晴らしいかを知ってもらいたい。
何故、講座を受けたのか、その感想を読ませてもらうと、
①　絵本に感動した。
②　楽しかった。
③　子供の頃にお話を聞いて感動した。
④　子育ての中で子供が感動して喜んでくれた。
⑤　自分の人生を楽しみたい。
⑥　絵本の背景にある物を知りたい。
そして一番多かったのは次の世代が豊かに育っていてほしい等とあります。
大事な事は原点に感動があるという事だと思う。

私自身の活動原点は子供の頃、近所のおばあちゃんに昔話をしてもらった事。ともだちと楽しい遊びもした。学校の先生がお話をしてくれた事などがきっかけで図書館員になり、途中困難はあっても子供に本を届けたいと言う気持ちがあったということです。
そして昭和２０年、敗戦の年に私は生まれました。
広島に原爆が投下され、一面焼け野原で草も木も生えないであろう地に芽が出て緑が萌えはじめ、目ざましい姿を見せはじめた１９５０年代。日本の出版物の新しい動きが始まりました。そして児童文学の世界でも「岩波少年文庫」が発刊されました。
芽が出て、緑が出、萌えはじめた。めざましい木や芽の姿から、何を大事にし何に期待したか、そして原作の真の姿を伝えていく・・・これが戦後の子供の本の原

点です。

　読み聞かせで大事な事は、子供の心を知る。そして大人のまなざしだと思います。
　では実際にお話をしていきます。
「でてこいでてこい」　　福音館書店
「もこ　もこもこ」　　文研出版
～お茶をのみに来て下さい～
「くまさんのおでかけ」　東京子ども図書館　おはなしのろうそく①
「こすずめのぼうけん」　素話
　昔話は伝承されてきていて、母国語を大切にしています。一本の線画を行くような世界です。子供は一次元の世界（時間の差が理解できない）としてとらえます。
　又、昔話には命の循環（命を食べて生きていない人はいない。生きる事は残酷である事もある）生きていくための知恵、そして人生の予行練習が語られていると思います。

第４回　記録
実施日時　平成１８年７月１３日（木）　午前１０時００分～１１時３０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　落合　美知子氏
外部指導者　　１名　　団体構成員　１２名
参加人数（大人）　５０名

活動内容
１.全員でわらべうたを歌う。
２.「実演」　絵本　わたしのワンピース
　　めっきらもっきらどーんどん
　　三びきのこぶた
３.選書の重要性を実演された絵本の解説。
　参考図書の引用解説により、学んだ。
＊「絵本のリスト」より、自分が子どもたちに読みたい本を選んでくる課題が出された。

～次回よりの「実習」１５人ずつ行われる事も伝達～
わらべうた　　「おちゃをのみにきてください」全員で３人のひととあいさつ
　　「ほたるこい　やまみちこい」①
　　「ほっほっ　ほーたるこい」　②
　　輪唱、①、②を同時に歌う。
　声を出すことをわらべうたを通じて気づき知る。
　心臓の音と同じ２拍子→「生命のうた」を子どもと楽しむ。

絵本の読み聞かせ「実演」　　わたしのワンピース　　落合先生
　　めっきたもっきらどーんどん
　　三びきのこぶた　瀬田貞二訳

絵本を選ぶ　　読み聞かせ 70%～80%は選書にかかっているとても重要。
　ポール・アザール　『本・こども・おとな』
　　「大人は、生きていくために本を下さい、どうかぼくたちに夢を残しておいて下さい」　→これを保証する本を大人は選ぶ必要と責任がある。
　ル・モンジュ　『ストーリー・テラーへの道』
　　「心が今日知った事を、頭が明日理解するのだ」
　瀬田貞二　『絵本論』
　　Ｐ97「絵本にはうそいつわりのない大人の目で、うそいつわりのない子どもの心が描かれている絵がほしい」→子供の心を動かし、楽しさを共有し、将来成長したときの糧になる芸術的に価値ある本を選ぶ。
　松岡享子　『えほんのせかい　こどものせかい』Ｐ46～を参考にして選書
夏休みの課題　　リストの本を実際に読んで、どうしてこれらが永く子どもたちに読まれているのか考え、確かめ、自分の読みたい本を選ぶ。

第５回　記録
実施日時　平成１８年９月７日（木）　午前１０時００分～１２時００分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　落合　美知子
外部指導者　　１名　　団体構成員　１２名
参加人数（大人）　４５名

活動内容

・ 落合先生の講座の３回目　最終回
・ 今日から受講生 14 名の実習を行いました。最初に先生から絵本の読み聞かせで大切な事は読み手、絵本、聞き手の関係が大切であるという事を話されました。受講生の実習終了後、40 年の活動の経験から大人が「誠実に伝えていけば、子どもは誠実にこたえてくれる」とお話された事が強く心に残りました。

絵本読み聞かせ実習
出席簿順
15　：しろくまくんなにがきこえる
17　：そらいろのたね
18　：だるまちゃんとてんぐちゃん
19　：アンディとらいおん
20　：しろいうさぎとくろいうさぎ
21　：おおきなかぶ
23　：りんごがひとつ→小さい
24　：せんたくかあちゃん
25　：かばくん
26　：きょだいなきょだいな
27　：もりのなか
28　：どろんこハリー
29　：かいじゅうたちのいるところ
30　：そらいろのたね

<u>わらべうた</u>
あかとんぼ　あかとんぼ
ようとぶとんぼ　あかとんぼ
はねのないのは　とうがらし
とうがらし　とうがらし

第６回　記録
実施日時　平成１８年９月２８日（木）　午前１０時００分～１１時３０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　がらがらどんメンバー及び司書
外部指導者　　なし　　団体構成員　１１名
参加人数（大人）４９名
活動内容

読み聞かせ実習②以下の１５名の方
出席簿順
１　：三びきやぎのがらがらどん
２　：おまたせクッキー
３　：だいくとおにろく
４　：かさこじぞう
５　：じごくのそうべぇ
６　：おじさんのかさ
８　：おおきなかぶ
14　：ろくべぇまってろよ
９　：まゆとおに
10　：ぐりとぐら
11　：すてきな三にんぐみ
13　：めっきらもっきらどおんどん
７　：おじさんのかさ
15　：だいくとおにろく

９月７日の実習①の発表時に様々なアドバイスをいただいた為か、今日の②の発表者は練習を積んできた様子。読み聞かせはほぼ上手に出来ている方が多かった。
全体的な注意点は、聞き手に絵が良く見えるように後方に傾けずしっかりと絵を楽しめるように見せる持ち方ということです。
読みたいと思った本を選んだときの気持ち、その絵の主人公やその内容のどんな点を子どもたちに手渡すかをしっかりと読み手がとらえておく。

第７回　記録
実施日時　平成１８年１０月５日（木）　午前１０時００分～１１時４５分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　森島瑛子氏
外部指導者　　１名　　団体構成員１２名
参加人数（大人）　４２名

活動内容
　いくつかのわらべ歌を実習
・ 手をつなぎ輪になって
　　かりかり　渡れ　大きなかりは先に　小さなかりは後に　仲良く渡れ
大人はすぐに歌うが子どもは覚えてから歌う→耳を澄ます事が大事
不確かな歌は伝えない。（違っていれば違ったままに途中で変えない）人の声を聞きながら歌いあわせる。
わらべ歌で育った子は声の調節が出来る。
沢山与えてあげるとグループで遊びはじめ社会的ルールを身に付ける。明るく元気な子どもを求めがちだが、いじけたり傷ついたりを体験し喜怒哀楽を感じてほしい。
（わらべうたには上記のような要素がつまっている）
・ 大人と子どもで
ぼうず　ぼうず　かわいときゃかわいけど　にくいときゃぺしょん

・　背中をなぜてあげて
いちり、にり、さんり、しりしり（お尻をぺしゃんとたたく）

こぶろ　こぶろ　どの子がかいい　この子がかいい
（耳たぶをさわり）（ほっぺをさわり）

・２人組みで（終わったらパートナーを替える）
　うっつけ　うっつけ　牛の子　ねーむれ　ねーむれ　ねこの子
　おーきれ　おーきれ　鬼の子
手をつないで振り、頭に手、指を突き出す。
今の子ども達は車座になれなかったり、しゃがめない→やっていないから。
わらべうたで空間間隔を感じる（前、後ろなど）

＊こっちのたーんぽたんぽやー＊おつむてんてんや、かっくりかっくりばあー
（右手をとり　左手ひじに当て、　　頭に手　　くるくるばぁ）
＊繰り返し＊

・大きな１つの輪になって
なかなかホイ　そとそとホイ　なかそとそとなか　なかなかホイ
そとそとホイ　なかなかホイ　そとなかなかそと　そとそとホイ

どの子が良い子　この子が良い子→鬼決めの言葉

・まん中に輪（中はばか）
ばかかばまぬけ　へっぽこなすのかぼちゃ
すっぱすっぱ　みそっぱ　あんた　キライフン→当てて替わる
最後はあんた好きよ
遊びの中で悪い事をやってみる→痛みを体験する→痛みが分かる子ども

・　輪になって
お茶を飲みに来て下さい はいこんにちは
色々、お世話になりました　はいさようなら
（お茶の部分を色々替えてバリエーションを楽しむ）

・　輪唱で楽しむ。歌いながら相手が替わっていく。
↓親指から
ここはてっくび　てのひらありゃりゃにこりゃりゃ　せいたかぼうずに
いしゃぼうず　おさけわかしの　かんたろさん
（言わない所を増やしていく遊び）遊びの中で失敗をたくさんさせるのが大事

お手ぶし手ぶし　手ぶしの中に　へびの生やけ　かえるのさしみ　いちょうばこ
やるからまるめておくれ　いいやん
○　手の中に入れた方を当てる。
○　オニを１人決め、誰がもっているか当てる←近くになったら大きな声で歌ってあげる。

・　１対１の遊び（目を見る事が大事）
布を使ったあそび（無地か小さい模様、キャラクターものはさける）
じぃじぃば・・・四回繰り返し（きれで顔を隠す）
ちりんぽろんととんでった（相手に飛ばしてやる）

赤い袋に何入れよ　赤いいちごを入れようか
青い袋に何入れよ　青いばったを入れようか
赤い袋は捨てようか　いちご畑に捨てようか
青い袋も捨てようか　ばったの家にすてようか

赤ちゃん赤ちゃん なぜ泣くの
ねーさんミルクを飲んじゃった
にーさんおもちゃをとっちゃった
かーさんお出かけ帰らない
そこでとーさんぷんぷんぷん　（名称を抜いて、言い遊ぶ）

・　きつね遊び

　何人か遊びに来る人たち、門番１人

＊山越して　川越して　隣のおこんさん あべおいで／ぐーぐーぐ

門：おらいのおこんさん　今寝てるで ／寝坊や寝坊

＊ 繰り返し　／じゃぶ じゃぶ じゃぶ

門：おらいのおこんさん　今顔洗ってるで ／寝坊や寝坊

＊ 繰り返し　／ぱく ぱく ぱく

門：おらいのおこんさん　今ごはん食べてるで ／食いしん坊食いしん坊

＊ 繰り返し　／がら がら がら

門：おや戸が開いた、今行くぞ　あめやるで　まってくろ／そんなあめいらん

　わらべ歌を通して人間関係をつくることができる。

　そして子ども達には自信を持って気持ちを伝えたい熱意があれば良い。

　上記のようなわらべ歌を教えていただき、実習をした。動きのある実習で、皆楽しそうに過ごし、時間があっという間に過ぎた。

第８回　記録
実施日時　平成１８年１０月２６日（木）　午前１０時００分～１１時３０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　おはなしがらがらどん
外部指導者　　なし　　団体構成員　　９名
参加人数（大人）　４６名

活動内容
①　「犬のおまわりさん」の作成
　　「おはなしおばさんの小道具」藤田浩子／編著　一声社　より

　四つのグループに分かれて作成

②　ミニおはなし会を楽しむ
　手あそび　　ここはってくびのてのひら
　絵本　　三びきのやぎのがらがらどん
　人形　　からすのおやこ
　おはなし　　おいしいおかゆ
　小道具を使って　犬のおまわりさん

③　製作した「犬のおまわりさん」を使って練習

④　展示した小道具の紹介
　ももたろう
　あめこんこん　ゆきこんこん
　にんじんと大根とごぼう

第９回　記録
実施日時　平成１８年１１月２日（木）午前１０時００分～１１時３０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
指導者名　図書館職員・おはなしがらがらどん
外部指導者　　なし　団体構成員　１１名
参加人数（大人）　　４０名

活動内容
「おはなし会の計画とプログラム作り」

Ⅰ　絵本の読み聞かせの会のプログラムの作り方～説明（田中さんより）～
受講生に配布した資料をもとに行う
１）実習（内容／小学生低学年の朝読 15 分～２０分　メイン１冊、サブ１冊を選ぶ）
約２０分所要
２）各受講生に提出してもらった案に対して講評する（左：メイン・右：サブ）
・「ロバのシルベスターとまほうの小石」「かいじゅうたちのいるところ」
　　メインにするのは良いが話が長めなので３年生以上が望ましい
　　サブはやや雰囲気が重なる。もう少し軽めがよい。
・「いっすんぼうし」「きょだいなきょだいな」
　　よい。メインの本をきちんと読んだ事のない人もいる。
・「ぶたぶたくんのおかいもの」「ちびゴリラのちびちび」
　　やや雰囲気が重なる。どちらがメインかわかりにくい。
・「どろんこハリー」「しっぽのはたらき」
　　よい組み合わせ。
・「すてきな３にんぐみ」「たまごのあかちゃん」
　　問題なく聞ける。導入方法としてサブを先にすることもある。
・「おふろだいすき」「せんたくかあちゃん」
　　重さ的に近いものがある。どちらかにしたほうが良い。
・「どろんこハリー」「かばくん」
　　重さ的には良いが、動物が重なるので違うものを選んだほうが良い。
・「そらいろのたね」「やさいのおなか」
　　よい組み合わせ。
・「くまのビーディーくん」「おまたせクッキー」
　　よい組み合わせ。
・「王さまと九人のきょうだい」「わたし」
　　よい組み合わせ。サブ本が気分転換になる。
・「ちいさいおうち」「ぞうくんのさんぽ」
　　よい組み合わせ。サブ本が幼児向けだが、メイン本がしっかりしているのでよい。
・「どろんこはハリー」「よかったねネッドくん」
　　よい組み合わせ。サブ本は特に子どもが喜ぶ。

・「まゆとおに」「わたしのワンピース」
　　サブが重い。メインとして通じる。
・「こぶじいさま」「きょだいなきょだいな」
　　よい組み合わせ。
・「まゆとおに」「ふしぎなナイフ」
　　よい組み合わせ。サブ本を読むのは少しむずかしいところはある。
・「まゆとおに」「ゆきのひ」
　　重さ的に近いものがある。サブ本はじっくり聞いてもらう本であるメインになる。
・「ゆきのひ」「たまごのあかちゃん」
　　よい組み合わせ。
・「ペレのあたらしいふく」「やさいのおなか」
　　よい組み合わせ。サブ本として「やさいの・・」は適している。
・「ごろはちだいみょうじん」「ティッチ」
　　よい組み合わせ。昔話を聞いた後、明るくかわいい本でよい。
・「ペレのあたらしいふく」「なにをかこうかな」
　　よい組み合わせ。

３）質問
　：時間を考えると本が足りないのでは？
→　余裕を持って終わらせ、あまればなぞなぞやわらべうたなどのおまけをつけるとよい。

Ⅱ　第１１回目講座（おはなし会実演）プログラム作り（おはなしがらがらどんより）
　・出演者を募る
　　絵本　　手遊び

Ⅲ　講座終了後の活動について
　１）H19．４月～　「絵本の読み聞かせ勉強会」を行う。
　　毎月第２木曜日、図書館集会室
　２）子どもが学校に通っていてボランティアとして参加したい方は図書館児童担当に相談して欲しい。
　３）読み聞かせボランティア希望される方は登録をして欲しい。

Ⅳ　がらがらどん活動内容説明（がらがらどん）

Ⅴ　ゆめ基金について説明・寄付の呼びかけ

第１０回　記録
実施日時　平成 18 年 11 月１６日（木）　午後１時００分～３時００分
活動場所　成田市立図書館２階視聴覚ホール
指導者名　平塚　ミヨ氏　藤井　早苗氏
外部指導者　　２名　　団体構成員　１２名
参加人数（大人）　３８名

活動内容
長年おはなしを語ってこられた平塚ミヨ氏、藤井早苗氏のおはなしを聞いて、おはなしのすばらしい世界を味わう。（がらがらどんメンバーも語る）

〈これからおはなしを始めたい方へのアドバイス〉
おはなし会終了後の短い質疑応答の中で
１　子供は必ず聞いてくれるので、自分の気に入ったおはなしを１つ覚えます。まず語ってみる。「おはなしリスト」を参考にして。
２　子供には昔話が最も向くが、類話が多いので、選ぶ際に読み比べてみる事が必要。平塚氏は昔話である「ふしぎなたいこ」、藤井氏は「おいしいおかゆ」を一番印象にの残るおはなしとしてあげ、子供達に必ず満足感を残すと話された。
３　「創作」のおはなしは、聞く力がついた子供でないと聞けない作品もある（例えばファージョンのもの）しかし、これほど心満たされる経験はない。

プログラム
１　きつねとトムテ　　絵本
カール・エリック＝フォーシェルンド／詩　ハラルド＝ウィーベリ／絵　偕成社
２　エパミナンダス
「おはなしのろうそく１」　　東京子ども図書館
３　ねずみの小判ぼし
「おはなしのろうそく２６」　東京子ども図書館
４　ルンペルシュティルツヘン
「一つ目二つ目三つ目」　　子ども文庫の会
５　おはなしの大好きな王さま
「山の上の父」　　岩波書店
６　なら梨とり
「おはなしのろうそく６」　　東京子ども図書館
７　おスだんなとおスおくさん
「イギリスとアイルランドの昔話」　福音館書店
８　棟の木かざり
「年とったばあやのお話かご」　　岩波書店

第１１回　記録
実施日時　平成１８年１２月１６日（土）　午後２時００分～午後３時４０分
活動場所　成田市立図書館２階集会室
団体構成員　１１名
参加人数（子ども）一部　１７名　二部　２０名　（大人）　　３０名

活動内容
　がらがらどんと受講生によるおはなし会の実演

手遊び　１つ１つでどんな音・・
２：０８～２：１０
第一部
くまのコールテンくん（絵本）
２：１０～２：１９
あめこんこん（わらべうた）
２：２０～２：２１
てぶくろ
２：２１～２：２７
腰折れすずめ
２：２８～２：３２
ろうそく消し
本の紹介（図書館）　２：３３～２：３７

第二部
犬のおまわりさん
２：５５～２：５７
きょだいなきょだいな
２：５８～３：０１
ねずみ経
３：０２～３：０８
ガラスめだまときんのつののやぎ
３：０９～３：１６
ろうそく消し
本の紹介（図書館）　３：１８～３：２１

閉講式　３：３０～３６
挨拶　がらがらどん　勉強を怠らず楽しんで、本を通じて子供達と本とのかけ橋となってほしい。
　　図書館　今までの学習を活動に生かして欲しい。